

## 新除草・調節剤

る。適用土壌は壤土～埴土で、1日の減水深

1.5 cm以下のところで使用する。

漏水の大きい水田では、使用をさける。早期、早植えなど生育抑制の心配がある場合は、中耕後に使用する。

### P H D 粒 剤

(取扱メーカー)大日本インキ化学工業株式会社

北興化学工業株式会社

対象作物：移植水稻

性状・作用特性：本剤は、4,5,7-トリクロルベンズチアシアゾール-2,1,3 (PH 40-21) 6.3%と、2-メチル-4-クロルフェノキシアセトヒドラジド (CPH) 1.0%を含む粒剤である。

本剤は、根部吸収によって殺草力をあらわし、イネ科雑草に効果の高いPH 40-21に、広葉雑草マツバイ等に効果の高いCPHを配合したものである。

人畜毒性は低く、安全に使用できる。急性経口毒性は、PH 40-21：ラットLD50

1,500 mg/Kg以上、CPH：マウス520 mg/Kg, 魚毒性はPH 40-21：ヒメダカ48時間TLM 5 ppm以上、CPH：コイ48時間TLM 4.3 ppm以上である。

使用方法：今回実用化が認められたのは、移植後土壌処理である。使用時期は、普通期の移植後4～10日で10アール当たり3Kgを処理する。適用土壌は、減水深0.5 cm/日以下の埴土～埴土である。

使用上の注意：DBNに準ずる。

[ D I C ] M P 粒 剤

D I C - 4 1 0 3 粒 剤

(取扱メーカー)大日本インキ化学工業株式会社

テイツク農薬株式会社

対象作物：水 稻

性状・作用特性：本剤の主成分は、ペンタクロルフェノールナトリウム1水化物 (PCP-Na) 20%と、2-メチル-4-クロルフェノキシ酢酸ヒドラジド (CPH) 1.2%の混合粒剤である。

PCP-Na, CPHともにその作用はすでによく知られているように、前者はノビエ、カヤツリグサ等水田初期雑草に有効な接触除草剤であり、後者はマツバイなどの多年生雑草やコナギなど広葉雑草およびある程度生育の進んだ幼少雑草に対し、根・莖葉から吸収され、殺草効果を示すホルモン型移行型除草剤である。

本剤は、この両者を配合することにより、母剤であるPCP-Naのマツバイ殺草力の小さい点と効力の持続性の短い点を改善したもので、水田の初期～中期にわたるよう使用適期幅も広がっている。効力持続期間もPCP-Na単剤の2倍程度長く期待できる。

使用方法：普通期および早期栽培の移植後4～8日および中耕後湛水土壌処理剤として、10アール当たり製品3～4Kgを均一に散布する。

魚貝類に対する使用上の注意は、PCP-Naに準じ、PCPの使用制限措置がとられている地帯ではその使用条件にしたがう。

適用土壌は埴土～埴土で、極端な漏水田、冷

## 新除草・調節剤

水田では使用をさける。また、軟弱苗、浅植苗、移植後活着の悪い苗にたいしては、薬害の発生するおそれがあるので注意する。

### HE-314 乳剤・粒剤

(取扱メーカー)三洋貿易株式会社

対象作物：粒剤…… 水稻(移植本田・稚苗田植機・湛水直播)

乳剤…… 水稻(移植本田・稚苗田植機・湛水直播・水苗代)

性状・作用特性：本剤は、DCPA, NIP 同様、米国のローム・アンド・ハース社で合成され、わが国で用途が開発されたジフェニルエーテル系の新除草剤である。有効成分は、3-メチルフェニル-4'-ニトロフェニルエーテルで、粒剤は10%、乳剤は25%を含有する。本剤は、非ホルモン型の接触剤で、雑草発生の前土壌処理効果および1~2.5葉期の雑草を湛水下で枯殺する雑草処理効果とを有する。なお、本剤は水稻が本葉1葉以上展開していれば、ほとんど害作用を示さない本質的な選択的安全性を有している。水稻水苗代、湛水直播栽培、稚苗田植機栽培等の従来の除草剤では薬害のおそれのある省力栽培で、安心して使える除草剤である。雑草に対する選択性は、ノビエを始めとする一年生雑草には高い効果を有するが、マツバイには効果が劣る。効果の持続期間は20日程度で、土壤中の移動性は小さい。なお、本剤は有機燐製剤、カーバメート系等の殺虫剤との前後散布による薬害のおそれはない。

使用方法：水稻移植栽培；田植後4日~12日(雑草発生前~雑草2葉期)の時期に10アール当り粒剤は3~5Kg、乳剤1,200~2,000CCを処理する。稚苗田植機栽培；田植後4~10日に10アール当り粒剤は3~5Kg、乳剤は1,200~2,000CCを処理する。湛水直播栽培；播種後10~15日(雑草1~3葉期)に10アール当り粒剤は4~6Kg、乳剤は1,600~2,000CCを処理する。なお、この場合なるべく播種前にニップ粒剤を3~4Kg散布しておくことが望ましい。水苗代；播種後10~14日(雑草1~2葉期)に10アール当り乳剤を1,600~2,500CCを処理する。

処理方法：粒剤は、手播か散粒機で均一に散布する。乳剤は、10アール当り20~40ℓの水に希釈し無圧散布機を用いるか、あるいは所定の原液滴下器を用いて3~8、作条間隔で各間滴下処理を行なう。

使用上の注意：使用時期が雑草の発生前処理であれば通常の水管理で利用できるが、雑草1~2.5葉期の処理の場合は、雑草体が水没する程度の深水(6~8cm)で処理する。また処理後4~5日間の湛水は深水に管理する。水もちの悪い水田では、除草効果が落ちるのでさける。寒地では、なるべく雑草の2葉期迄に使用し、使用量もやや多目にする。さらに水管理に充分注意する。また、本剤はマツバイに対し効果が劣るので、マツバイ多発地では、マツバイに高い効果を有する除草剤との組み合わせ体系で使用するようにする。